（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2572200240		
法人名	特定非営利活動法人　びわの音・西近江		
事業所名	グループホームねねの家（本館）		
所在地	滋賀県高島市今津町名小路一丁目3番地の1		
自己評価作成日	平成30年8月7日	評価結果市町村受理日	平成30年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2572200240-00&PrefCd=25&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成30年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然環境に恵まれ、施設からの眺めや近隣の散歩によって季節の変化を身近に感じられる。また町中にあり人や車が行き交う様子も眺められる。畑で入居者と一緒に四季の野菜を育て、成長と収穫の喜びを分かち合っている。施設内にも四季の草花を貼り絵などで作成し、季節感を醸し出すようにしている。日常生活においては各自のペースで過ごして頂きつつも、集団での体操やレクレーションにより、心身の機能低下防止と共同生活の連帯感を育んでいただけるような活動も行っている。お楽しみ行事として初詣、お花見、夏まつり、クリスマス会また誕生会など機会に応じて外食を行っている。また利用者の好きなことや能力を引き出し洗濯たたみ、食器拭き、縫い物など一緒に行う。入浴については基本隔日に入れるように実施し清潔保持と利用者の満足感につなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは家庭的な環境作りや利用者のできる事を大切に生活、地域交流について謳われたホーム独自の理念を大切にし、管理者は日々職員が意見を言いやすい雰囲気を作り申し送りや定期的に行うカンファレンス等で意見や提案を聞き、またサービス向上委員会を行い業務や事故対策等について話し合う機会を作り、利用者の暮らしを支えられるように取り組んでいます。また運営推進会議に家族や民生委員、地域包括支援センター職員、元中学校校長等の参加を得ており、多くの提案をもらい地域の防災学習会への参加や利用者と一緒に作成した貼り絵などを文化祭へ出展すること等の取り組みに繋げ、地域交流が深まっています。職員は利用者が家事などのできる事に力を発揮し日々のレクリエーションや季節毎の行事を楽しみながら暮らせるような支援に努めています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境、自立した生活、自然とのふれあい、地域・家族との交流を理念に掲げ、新任入職時、カンファレンスや全体会議、申し送りなど機会ごとに職員に伝え共有を図っている。又、常に意識できるように掲示している。	法人の理念の基ホーム独自の理念を掲げ、玄関に掲示し意識できるようにしています。家庭的な環境作りや利用者のできる事を大切に生活できるようカンファレンスで検討したり、運営推進会議では地域交流について話し合う等、理念を実践できるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の食料品店から食材を配達してもらったり近隣の人たちから野菜を頂いたりする。地元中学生の福祉体験の受け入れや、夕涼み会にはボランティアの方が踊りに来られる。散歩時には地域の方と言葉を交わす。	日々の散歩時等に地域の方と出会った時には挨拶を交わし、地域の祭りや花火などの行事の情報をちらし等で得ています。毎年中学生の福祉体験を受け入れたり、ホームで行う夕涼み会にはボランティアに来てもらう等の交流を継続しています。今年度は地域の文化祭に利用者と一緒に作成した貼り絵などを出展する計画を立てています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の人から介護相談や、介護の必要な人の情報を頂き、包括などの関係機関と連携し、当施設利用に関わらず、サービスにつなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設からは入居者の状態、日々の活動、館ごとの全体的な様子などを伝え、出席者からは意見、質問を受けたり、又地域の課題について一緒に考え　話し合う。その後、会議内容を職員に回覧し、必要時カンファレンス等で検討、改善に努めている。	会議は家族や民生委員、地域包括支援センター職員、元中学校校長等の参加を得て3か月毎に開催しています。ホームから利用者の状況や活動、災害の被害などをスライドにして見てもらい、参加者からの質問に答えたり意見交換をしています。地域の防災学習会や文化祭への参加等の意見をもらい実現に向けて検討する等、会議をサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から包括支援センターに赴き、施設の状況を伝えたり、相談している。又施設だよりを渡し日々の生活を伝える。運営推進会議の場でも情報交換、意見交換を行っている。	市の担当者でもある地域包括支援センター職員には運営推進会議に出席してもらい、ホームの事を知ってもらっています。また入退居等の報告に直接窓口に出向いたり、介護サービス事業者協議会のグループホーム部会に出席し、協力関係を築けるよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等で理解の浸透に努め、見守りの充実やベッドの低床、身近な危険物の排除などに心がけ拘束しないケアをしている。又やむをえない入居者がおられる場合は、本人、家族に説明し承諾を得て最低限度の拘束にしている（ベッド柵の利用など）。マニュアルも見直した。	身体拘束についての勉強では基本的な知識を身に着け、職員がセルフチェックを行い対応を振り返りながら身体拘束に繋がらないような対応を心がけています。玄関の鍵は掛けず、外に行きたい様子の利用者には一緒に出る等拘束感を感じないような支援に努め、サービス向上委員会を行い身体拘束防止についても話し合っています。ベッドからの転落防止のため柵をしている利用者には家族に承諾をもらい、定期的に必要性について話し合っています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日々の介護では職員同士が行動を見つめ合い、虐待兆候発見報告書、及び虐待兆候調査報告書を作成しフローチャートにしている。今年度も研修を予定している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象の利用者がおられ、関係者が面会の際には同席し、話し合いや手続きが進むように支援している。今後は職員が学べる機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をかけ、できるだけわかりやすく説明している。家族の不安や質問に答え、理解・納得を得られるように努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とコミュニケーションを図る中から本人の意向や要望をくみ取っている。又家族とは電話連絡を密にし、面会時にはできるだけ同席し家族の意向を聞き取る。玄関に意見箱を置いて自由に記入できるようにしている。	日々の関わりの中で利用者の要望を聞くようにし、献立などに反映しています。家族の意見や要望は面会時や電話をかけた時、運営推進会議の際などに聞いています。家族からは現在の利用者のケアに関して外出等も含めて継続してほしいとの意見があり、外に行く機会を作ったり日々の暮らしの中で楽しみを持って暮らせるよう支援するなど、意見を受けて職員はサービスに反映できるよう取り組んでいます。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや定期的なカンファレンスなどで、又サービス向上委員会を設け提案、意見を述べる機会を増やした。	日々職員が意見を言いやすい雰囲気を作りコミュニケーションを図ったり、申し送りや定期的に行うカンファレンス等で意見や提案を聞いています。またサービス向上委員会を行い業務や事故対策等について話し合う機会を作ったり、研修の後職員アンケートを行い職員の意見を吸い上げ運営に反映できるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況や努力を把握し、就業時間や職場環境を見直し、個々の力を発揮できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修はなかなか参加できないので、今年度も引き続き施設内研修を実施し、特に経験の浅い職員を優先的に受講できるようにしている。その後も勤務しながら経験を積んで行けるように努めている。定期的な勉強会が開催できるように検討していく。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内介護サービス事業所協議会を通じて相互訪問したり、研修会、交流会を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設長や職員が出向き、本人と面談し要望を聞いたり、見学に来て頂いて他の入居者と交流していただいたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族はいろいろな不安や困りごとを抱えて相談に来られるので、その段階で十分な時間を取り、まずは家族の思いを受け止めるよう心がけ、信頼関係を築いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にこだわらず、関係機関と連携しながら本人、家族が必要としている支援を見極め、施設ができる支援があれば要望に応えている。体験的な利用もしていただける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ、調理、配膳、下膳など日々の家事的な作業や、植え付けや収穫などの畑作業等を、入居者の能力や意向に応じて一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況や思いを折に触れ家族にお伝えし、必要に応じて面会や外出をお勧めし、本人の喜び、安心と家族のきずなを深めていただけるよう努めている。家族の受診付き添い時には外食されたりしている。夕涼み会では大半の方が家族とともに過ごしていただいている		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人や友人の面会は自由にしていただいている。希望されればなじみの美容院や商店に買い物に行っていただいたり、法事などで外出されることもある。	友人や知人の面会は家族を通じて連絡があり、以前近くに住んでいた方や親戚等の来訪があった時には居室に椅子を準備する等ゆっくりと過ごしてもらえるよう支援しています。家族と自宅に帰る方もおり準備等の支援をしたり、希望に応じて買い物や美容院等への外出支援を行い、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が集まって過ごせるスペースがあり、そこで会話があったり、お互い見守り助け合いの光景も見られる。孤立しないように調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてその後の経過を見守り相談に乗ったり、できる支援をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面接時、及び入所当初はアセスメント用紙に記入する。その後は日々の言動や、関わりの中での反応をみてくみ取り記録している。又定期的なカンファレンスなどで皆で確認し共有している。	入居前に自宅や施設等利用者が暮らしている所に出向き利用者・家族と面談をしたり、担当のケアマネジャー等から情報を得て思いや意向の把握に努めています。入居後は日々の関わりの中でコミュニケーションを図り思いを聞いたり、気付きを記録に残したり申し送りで話し合うことで職員間で思いを本人本位に検討し共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族や関係機関から、入所されてからも追々情報を把握し、可能な範囲でなじみの生活に近づけるように努めている。好きな人には畑作業や草むしりをしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ日々の過ごし方、本人の言動、関わり方に対する反応、活動に対して本人のできる力などを細かく記録するよう努めている。又カンファレンスや申し送りなどで共通認識できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日々の関わりの中で、家族とは電話や面会時に意向を聞き、又医師からの助言に基づき職員と2ヵ月ごとのカンファレンスで話し合い計画を立てている。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、変更や追加があれば特にその部分を色で強調している。	本人の思いや家族の意向、アセスメントの基カンファレンスで意見を出し合い介護計画を作成しています。3か月毎にモニタリング評価を行い、再アセスメントを実施し計画を見直しています。見直しに当たっては家族からの意向を再確認し受診時の情報、職員間のカンファレンスで話し合った内容を計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践した結果を個別に処遇記録に記入し、特に大事なことは特記事項欄を設け、さらに申し送り・ノートで共通認識できるように努めている。その中で新たな気づきや変更の必要があれば計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き通院介助を行ったり、美容院や買い物に行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生との交流を楽しまれたり、夕涼み会でのボランティアの協力などにより心身共に豊かな生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に今までのかかりつけ医を継続されているが、希望されれば施設の協力医に変更される場合もある。通院は支援しているケースが多く、医師と随時情報交換している。又往診可能な医師・歯科医師に往診を受けておられる方もいる。	入居前からのかかりつけ医を継続してもらうことを基本とし、往診を受けている方もいますが受診は家族の行けない状況であれば職員が支援をしています。内科受診は職員の対応が多い状況ですが専門医への受診は家族の対応と職員の対応となっています。10月から訪問看護による健康管理を受け医療連携を図る予定となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日ごろの関わりで気付いた変化や情報を施設長に伝え、協力病院やかかりつけ医の看護師に連絡、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は速やかに病院関係者と情報交換し、本人の状態を伝え　入院生活が円滑に行くようにしている。又入院中は頻繁に足を運び本人の状況把握をしている。又早期退院に向けて関係者と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の段階で重度化や終末期の対応については施設のできる範囲を説明し了解を得ている。ただしその時の状態に応じて家族と話し合い、関係機関を紹介・連携しながら退居までできる限りの支援をしている。	入居時にホームでは医療行為ができないことやできる支援について説明しています。利用者が重度化していく中で医療との連携を図りながら家族とも相談し、入院や転居に至るまでできる限りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	30年度も施設内で、本格的な訓練を含めた研修をしたが　実践力はまだ不十分と思える。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回実施している。今後は地域の方にも参加していただく予定をしている。	消防訓練は年に2回昼夜を想定し、内1回は消防署の立ち合いの下実施し、通報や初期消火、避難誘導の訓練を行っています。運営推進会議では地域の方に災害時や訓練への協力依頼を行い、地域の防災学習会への参加の勧めがあり出席予定としており協力関係に向けて取り組んでいます。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの確保についてスタッフ間で話し合い、気をつけている。特に排泄の誘導の言葉かけや、排泄時の介入は本人状態に応じて最小限にとどめている。	利用者に寄り添い人生の先輩であることを大切に考えた対応を心がけています。カンファレンスで事前に気付きや良いケアについて考えてもらい、関わり方や対応を振り返りながらより良い接遇や言葉かけを職員間で共有しています。排泄の支援時には羞恥心に配慮し声のトーンや言葉にも注意を払い、不適切な対応が見られた際には都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ寄り添い、会話の機会を持ったり、そばで見守る時間をとって、本人の思いが表せるように努めている。意思表示ができない人は表情や反応からくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れは決まっているが、その日の状況により入居者と一緒に活動を考えたり、参加についても自由にしている。共有スペースで過ごされたり部屋に休みに行かれたりマイペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望されれば一緒に服を買いに行って自分で選ばれたり、美容院で髪を染められたりしている。定期的に理容店に来てもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みは把握しており、特に誕生日には本人好みの物中心のメニューにしたり、外食を好まれればレストランにて誕生日会をする。個々の力に応じて食材下ごしらえ、テーブル拭き、後片付け、おはぎづくり等一緒に行っている。昼・夕食は職員とともに談笑しながら食べる。	利用者の好みや旬の食材、季節の行事に合わせて考えられた献立をもとに食事を作り、昼夕食は職員も一緒に食卓を囲み介助をしたり会話を楽しみながら食事を摂っています。利用者の希望を聞きお好み焼きを作ったり、ホットケーキや団子などのおやつを作ることもあります。花見や敬老会などの行事の際に外食にも出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録から把握し、定期的に体重測定を行い、栄養が確保できるように支援している。バランスよく食べられるよう、横で声かけしながら、苦手な物もできるだけ食べていただく。水分は食事やおやつ時の他にも希望時に飲んでいただく。また咀嚼や嚥下の力に応じて形態を工夫する。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人の状態に応じて、緑茶でのうがい、歯磨き、義歯洗浄を行っている。特に口臭の強い人などには念入りに行う。義歯装着されている人は毎晩洗浄剤に浸けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンによって時間的に声かけしたり、誘導または介助している。しぐさや表情、動向を見て察知し誘導しており、失敗やおむつ使用を減らすようにしている。	個々の記録から排泄パターンを把握し、時間や様子を見てその人のタイミングでトイレに行けるよう支援しています。カンファレンスでは声のかける必要性やパッドや紙パンツ等の排泄用品の種類、支援の方法を検討し、職員間で情報を共有し自立に向けた支援をしています。支援の結果紙パンツから布の下着に変更した利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜が摂れるように献立に工夫をし、できるだけ摂取を促す。又水分摂取を励行し、個人に応じて乳製品の摂取や腹部マッサージを行なったり、ラジオ体操や手足の運動もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯については安全面や急変対応を考慮して職員体制の充実している日中の午後に実施している。基本隔日で希望があり身体的に可能なら毎日でも実施している。湯温も可能な範囲で好みに合わせる。必要な方は二人で介助し安全に留意している。入浴拒否のある場合は　日時や職員を変えるなどして無理のないように支援している。	入浴は午後の時間帯で2日に1回を目安に支援し、希望によっては入浴の順番や毎日の希望にも対応しています。好みのシャンプーやリンスを準備し、希望にそってシャワー浴の方がいたり二人介助で湯船に浸かる方もいます。一人ずつコミュニケーションを取りながらゆっくりと入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣や、その日の体調などにより自室で横になって休んでいただいている。就寝も一人一人のタイミングで支援し、意思表示が困難な方には表情や様子を見て就寝介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに入れていつでも確認できるようにしている。特に変更のあった薬や注意が必要な薬については申し送りノートに記入し周知できるようにし、その後の変化を観察している。服薬が困難な人には薬局と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、畑作業を一緒に行ったり、塗り絵、ちぎり絵、折り紙などの創作活動に取り組んでいただいている。また食器拭き、掃除、洗濯物たたみやタオルたたみなどが役割になっている方もあり自信につながっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見など季節に応じた外出や、誕生会、敬老のお祝いなどの行事に応じた外出をされている。日常でも散歩や畑仕事などを行っている。家族と出かけられる時もある。	気候や天気の良い日には散歩に出かけたり、畑の野菜の収穫や庭に出て弁当を食べたりお茶を飲むなど、外気に触れる機会を多く作っています。初詣や季節の花見、クリスマスや敬老会等の行事ごとの外食を楽しんでもらっています。また誕生日の際に外食の希望があれば、お祝いの催事として皆で出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際には本人の管理が難しい方が多く、希望もないため所持されていないが、希望され家族も了解されている方は適切な金額を渡す場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については時間帯など、ある程度取り決めをし、希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる生花をできるだけ絶やさないように飾ったり、観葉植物を置いたりしている。また季節ごとに入居者と一緒に貼り絵を制作し壁に飾っている。気温湿度を確認し、窓の開閉、エアコンの使用を行っている。またカーテンにより採光の調整を行っている。随所にソファーを置き思い思いの場所で過ごされる。	ユニット毎に季節を感じられる貼り絵や生花を飾り、食卓以外にもソファーを置いたりベンチのあるスペースがあり、寛いだり少人数で過ごせるよう配慮しています。毎日の掃除はできる日に利用者もモップ掛けや手摺拭き等に携わってもらいながら行い、温湿度管理にも配慮をしながら快適な空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳スペースで、みんなで過ごせる空間を作りレクレーションを行ったり、テーブル席で少人数で過ごせることもできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや椅子などできるだけなじみのものを持ち込んでいただいている。また家族写真や趣味の作品などを飾っておられる方もいる。希望があればテレビを搬入し見ておられる方もある。	入居時に自宅で使っていたものを持って来てもらうよう伝え、タンスやベッド、棚等の使い慣れた物を家族と相談して生活しやすいよう配置しています。家族の写真を飾ったり、テレビを見て楽しむ方もおり、その人らしい居室作りに努めています。毎日換気を行い、できる利用者には一緒に掃除をし清潔を保っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋に手作りの表札を掲げたり、随所に手すりを設置し、状態に応じて使用してもらいながら安全に移動できるように支援している。		